

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

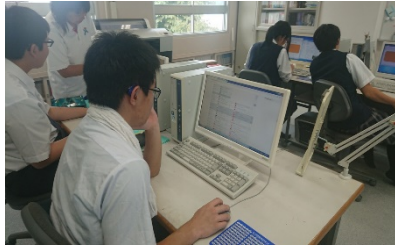
事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 福島県立聴覚支援学校 】

1 実践テーマ	①・II・III・IV・⑤
2 実施対象者 (学年・人数)	<p>中学部 通常の教育課程の生徒 22名</p> <p>高等部 全学年 28名</p>
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>①教科名 (保健体育・美術)</p> <p>②行事名 ()</p> <p>③その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>①イベント名 ()</p> <p>②その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>1 オリンピック、パラリンピック、デフリンピックの調べ学習を通して、その意義や歴史について理解を深める。</p> <p>2 オリンピック・パラリンピック・デフリンピックについて学ぶことによって、生徒が日常の生活や部活動などに生かせるようにする。</p> <p>3 制作活動を通して、オリンピック、パラリンピックに関心をもつことができる。</p>
5 取組内容	<p>1 オリンピック・デフリンピックについて【高等部】</p> <p>(1) オリンピック・パラリンピック教育の目的や、今後の計画についての話し合い(9月)</p> <p>(2) オリンピック・パラリンピックの歴史や出来事等について調べる。(9月～10月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回から現在までの、開催年、開催国(都市)、参加国数、参加人数、日本人のメダル獲得数、トピックスについて、担当を割り振り、主にインターネットを中心に調べ、まとめた。 <p>(3) オリンピッククイズの作成(10月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各個人でオリンピックに関するクイズを考え、問題集としてまとめた。 <p>(4) 発表(10月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「オリンピックロード」と題し、学習発表会に合わせ、廊下・階段に掲示し、本校の児童生徒、教職員他、保護者や地域の方々にも学習の内容を知ってもらう機会とした。



2 パラリンピックについて【中学部】

(1) オリンピック・パラリンピックについてや今後の流れの確認
調べ学習のグループ編成(9月)

(2) パラリンピックの歴史や出来事についてグループごとに調べる。(10月)

- ・開催地や参加した日本人、福島県出身者、トピックスなどについてグループごとにiPadを使って調べる。調べた内容を各グループごとにiPadを使ってまとめる。

(3) 掲示(10月)

- ・高等部と合わせて「パラリンピックロード」と題して、階段に掲示を行う。学習発表会に合わせ、本校の児童生徒、教職員他、保護者や地域の方々に学習内容を知ってもらう機会とする。



3 オリンピックアートについて【高等部】

(1) 東京2020マスコット制作

- ・ソメイティとミライトワのキャラクターの共同制作に取り組んだ。爪楊枝に色を塗り、キャラクターを描いた台紙の上に刺して、爪楊枝アートとして完成させた。制作期間は約3ヶ月。

(2) 発表

- ・学習発表会に合わせ、階段に掲示し、本校の児童生徒、教職員

他、保護者や地域の方々にも学習の内容を知ってもらう機会とした。



6 主な成果

・自分か調べた内容と他生徒が調べたものをお互いに確認したり、話し合ったりする場面が多々あり、より発展した調べ学習につながった。

・校内に掲示することで、幼稚部、小学部、中学部、高等部の幼児・児童・生徒が、日常的に観ることができ、オリンピック・パラリンピックへの興味関心が高まった。また、学習発表会に合わせたことで、保護者や地域の方々にも、学習の成果を披露することができた。

・将来、デフリンピックはもとより、部活動での各種大会において、県大会、東北大会、全国など、より大きな大会に出場したいという生徒が増え、部活動における生徒の意識が高まり、部活動の活性化につながった。

7実践において工夫した点(事業の特色)

・本校は、聴覚に障がいがある生徒が通っている。部活動も活発に行われ、将来デフリンピックを目指している生徒もいる。実際デフリンピックに参加した卒業生もあり、オリンピック・パラリンピック教育と併せ、デフリンピックについても取り上げることで、生徒の興味関心を広げられるようにした。

・オリンピック・パラリンピック開催まで、形として残るものを作ることで、継続した指導ができるようにした。

・障がいを併せ有する生徒については、美術科での制作活動をととして、オリンピック・パラリンピックの関心をもたせた。

8 主な課題等	・保健体育の授業を中心に取組んだが、通常学級においては、準ずる教育課程のため、時間の確保が難しく、また、大会期間と重なり、期間があいてしまうなど、継続した授業ができないこともあった。
9 来年度以降の実施予定	・今回は夏季のオリンピック・パラリンピックについて取り上げたが、生徒から、冬季オリンピックについての提案があり、冬季についても、今後検討していく。